柔らかい肌（1963）

LA PEAU DOUCE
THE SOFT SKIN

メディア 映画
ジャンル ドラマ　ロマンス
製作国 フランス
色彩 B&W
時間 118分
初公開日 1965/05/11
公開情報 ヘラルド

【解説】

ヒッチコックへの敬愛を姦通のスリルを描くことで大胆にあらわしたトリュフォーの傑作中の傑作。著名な文芸評論家ラシュネー（ドザイー）は、講演に出向くリスボン行の機上で見初めたスチュワーデスのニコル（ドルレアック）と町で再会、急速に親しくなり男女の仲となる。帰りの機中、ニコルはマッチに電話番号を書いてよこし、彼は自宅について、一人娘の歓迎や、友人の来訪を受けても気はそぞろ。秘書を置いた仕事場でも同じで、女に電話で連絡をするという行為だけでサスペンスを醸成するのにまず感心させられる。やがて、妻に嘘をついて外出をしては、寸暇を惜しんで彼はニコルと愛し合う。そして、ラシュネーはニコル逢いたさに、取るに足りない地方講演をも引き受けるが、迎えた友人やお歴々の相手で、ニコルとの時間が作れず、おまけに肝心の講演の席も取ってもらえないとあって、日陰者の身につまされてニコルは怒り出す。困ったラシュネーは、うるさくつきまとう友人をまいて、彼女とあらかじめ予約してあった近くのコテージに向かう。すっかり恋人気分で彼女と写真を撮ったりするのだが、そこから入れた電話で、妻に嘘がバレてしまい、すぐに不和は決定的となって、彼らは別居生活に入る。早速、ラシュネーはニコルとの新居を物色するのだが、そんな彼にニコルは結婚の意志のないことを告げ、立ち去る。彼は行きつけのカフェから、妻とやり直せないかどうかを友人に打診し、次に妻に電話を入れてみるのだが、彼のニコルを写した写真を受け取っていた妻は、既にそのコートの内に猟銃を隠し、家を出た後だった……。ラストの妻フランカ（ベネデッティ）の凍りついた表情に微かに笑みの浮かんだような気がしたのは、その終局のあまりのやるせなさゆえの錯覚か。ニコルのドルレアックが冷ややかに美しく、G・ドルリューの音楽もまた素晴らしい。

【クレジット】

監督	フランソワ・トリュフォー	Francois Truffaut
脚本	フランソワ・トリュフォー	Francois Truffaut
	ジャン＝ルイ・リシャール	Jean-Louis Richard
撮影	ラウール・クタール	Raoul Coutard
音楽	ジョルジュ・ドルリュー	Georges Delerue
出演	ジャン・ドザイー	Jean Desailly
	フランソワーズ・ドルレアック	Francoise Dorleac
	ネリー・ベネデッティ	Nelly Benedetti
	サビーヌ・オードパン	Sabine Haudepin
	ジャン・ラニエ	Jean Lanier
	ポール・エマニュエル	Paule Emanuele
	ロランス・バディ	Laurence Badie
	モーリス・ガレル	Maurice Garrel

このデータベースのデータおよび解説文等の権利はすべて株式会社スティングレイが所有しています 。
データ及び解説文、画像等の無断転用を一切禁じます。 Copyright (C) 2026 Stingray. All Rights Reserved.